

「さんべまるごと体験！もり(森)もり(盛)SANBE」

～間伐材を使ったワークショップと薪を使ってピザづくり～

1 趣 旨

- ・森林を育てる過程で発生する資源『間伐材』を使ったワークショップを通して、森の環境維持と木材利用について学ぶ。
- ・親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知ってもらう。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和3年10月2日(土)～3日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力 林野庁 近畿中国森林管理局 島根森林管理署
- (4) 対 象 小学校4年生～5年生とその家族
- (5) 参加者 38名(子ども21名 大人17名) 募集50名 申込63名
- (6) 日程・内容

1日目	11:00	11:20	12:00	13:00	～	15:30	17:30	18:30	～	20:30	22:30
	受付	はじめの会	昼食	森林教室(紙芝居)と 間伐材を使った 木工教室		休憩	夕食・入浴	選択活動 ①天体観察会 ②映画鑑賞(DVD鑑賞) ③自主活動		就寝準備	就寝

2日目	6:30	7:00	7:30	9:00	9:30	～	11:30	12:00
	起床	清掃	朝食	退所点検	薪を使ってピザづくりと スウェーデントーチを使って 焼きマシュマロ		おわりの会	解散

3 事業の特色

(1) プログラムデザインのポイント

- ・森林を知るきっかけとして、国の天然記念物として指定されている三瓶山自然林を主題に「地域連携プログラム」の連携先である島根森林管理署の協力を得て森林教室を行った。実際に、三瓶地域で伐採された間伐材を使い、地域の資源を活かしたプログラムを通して、体験しながら学びの機会を参加者に提供した。
- ・薪を燃やすタイプのピザ窯や、丸太を燃やした焚火を使うことで、自然から得られる恵み(薪)を食生活に取り入れる体験をし、人と自然の関わりに関心を持ってもらう機会にした。
- ・小学校5年生の社会科にて、「国土の環境を守る」で森林や林業について学ぶことから、対象は小学校4・5年生とした。

(2) 運営のポイント

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、活動場所の換気及び消毒を徹底した。
- ・参加者に手洗い、マスクの着用及び朝晩の検温の徹底をお願いした。
- ・使用する道具は事前に消毒をし、配付する食材は家族ごとに仕分けし準備をした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	80	20	0	0
プログラム	88.9	11.1	0	0
運営	88.9	11.1	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・紙芝居や動画など、ゆっくり楽しめて良かったです。その後の作品作りや、のこぎり体験もとても面白くて夢中になりました。
- ・森林には人工林と天然林があることを知りました。また学校で木の事を話してみようと思います。

5 成果と課題

《成果》

- ・紙芝居や3Dアニメーションを用いて「森林の現状」「森林の役割」などを学ぶ森林教室を行い、その後、木の実や間伐材を使った木工工作に取り組むとともに、針葉樹と広葉樹の硬度の違いを丸太切りで体験した。翌日、薪窯を使ったピザづくりと、事前に準備した間伐材を利用したスウェーデントーチで焼きマシュマロづくりを行った。2日間を通して「話を聞く（聴覚）」「映像を見る（視覚）」「木に触れ嗅ぐ（触覚・嗅覚）」「木を使って調理したものを味わう（味覚）」の五感を使い、参加者が自ら森や木材について学び感じ取る体験活動を提供することができた。

《課題》

- ・本事業は6年目を迎え、三瓶周辺地域の事業所（民間団体・地域事業者等）と協力し、三瓶周辺地域でできる様々な体験を提供することを主としてきた。しかし、新型コロナウイルスの緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置により、地域のイベントが中止となる中、地域事業所に本事業への協力を依頼することが難しく、今回は島根森林管理署に協力を依頼した。来年度、地域のイベントが再開する場合は、地域事業所との連携を再開したい。
- ・多数の応募があったが、新型コロナウイルス感染症予防のため、参加決定後もキャンセルやお断り（発熱のため）をした家族があり、結果的に募集人数を下回る参加人数となった。



森林管理署さんによる紙芝居を使った森林教室



丸太切り体験



薪を使ったピザ窯でのピザづくり



スウェーデントーチを使った焼きマシュマロづくり

(担当：事業推進係 竹田 幸)